

2012年度
(平成24年度)

事業報告書

目次

| | | |
|-----|-----------------|----|
| I | 2012年度事業報告 | 3 |
| | 1. 国内における平和構築活動 | |
| | 2. 海外における平和構築活動 | |
| | 3. 財務体質の強化 | |
| II | 組織 | 14 |
| III | 会議 | 17 |

2012年度の事業報告にあたって

2012年度は、理事会で決定された事業財務改善3カ年計画に基づき、事業の効率化と新規事業資金獲得に努めた結果、初年度において計画を上回る収支均衡を達成することができました。このことは今後の日ユ協連運営の要となるものであり、日ユ協連および関係各位の協力の賜物であります。3カ年計画2年目の2013年度は、その定着を目指してたゆまない努力を続けて参ります。

年間を通じて、国内では青少年支援活動及び未来遺産運動などを、海外では世界寺子屋運動、世界遺産活動などの国際協力事業をさらに展開しました。また2011年3月11日に発生した東日本大震災への教育・文化復興支援活動は、問題の重要さにかんがみ重点的に推進しております。

東日本大震災子ども支援募金は、時の流れとともに震災記憶の風化が懸念されるなか、中・長期的視野にたった支援を継続し、復興に対する社会的関心の喚起に取り組みました。

中期支援では、企業などと協働してコミュニティ再生、文化復興への支援を行いました。長期支援では、「MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」を通じて遺児・孤児 1,231名、「ユネスコ協会就学支援奨学金」を通じて被災した小中学生 1,847名、計 3,078名の被災児童・生徒に奨学金を給付することができました。しかし、就学支援奨学金に対する被災地のニーズは依然として高く、今後とも継続して取り組んでいかなければならない課題であります。

支援活動を円滑に進めるにあたり、被災地のユネスコ協会や教育委員会と連携を引き続き行いました。なかでも、宮城県石巻市雄勝町の法印神楽の復興の過程を記録したドキュメンタリー映画「雄勝～法印神楽の復興」は、全国のケーブルテレビ等で繰り返し放映され、人々に復興への関心と勇気を与えました。雄勝法印神楽は2012年度地域伝統芸能大賞を受賞するという荣誉に輝きました。

外務省よりUNESCOパリ本部を通じた東日本大震災復興支援事業「KIZUNA強化プロジェクト」を受託。カナダから高校生100名を招聘し、被災地の訪問並びに各地ユネスコ協会の協力によるホームステイ交流により相互理解を深めました。

このような復興支援活動を行うなか10月には、UNESCO執行委員会の会期にあわせて、東日本大震災への謝意を表す「浮世絵展示会 ～日本より感謝をこめて～」を UNESCOパリ本部内でUNESCOと共催し、併せてスタディツアーを実施しました。展示会では、自然と共生して生きようとする日本文化の特徴を描いた信仰の山「富士山」の浮世絵を中心に展示し、好評を得たところであります。

ユネスコ活動への支援の輪は、横綱白鵬関（UNESCOスポーツチャンピオン）、二村英仁氏（UNESCO平和芸術家）、久保純子氏（日ユ協連広報特使）、東儀秀樹氏（日ユ協連スペシャルアドバイザー）をはじめ、数多くの企業・団体・個人の皆さまのご協力によってさらに広がりました。

国内の青少年支援活動には各地ユネスコ協会とともに積極的に取り組み、ユネスコスクールとの連携を中心に、学校プロジェクトを広め、出前授業を実施しました。

未来遺産運動では新たに9つのプロジェクト未来遺産が登録され、従前と合わせて39プロジェクトとなりました。今後、協力企業との相談の中で、内容の充実と更なる発展を期していきます。

世界寺子屋運動は引き続きアジア5カ国で展開し、技術訓練と合わせて読み書きの機会を7,000人以上の人達に提供した。アフガニスタンの国内避難民200名以上が無事に越冬できる支援を行ったほか、企業と協働してカンボジアへのスタディツアーへの参加者を拡大しました。

世界遺産活動では、継続支援が実り、フィリピンの「コルディリエーラ棚田群」が危機遺産リストから外れたほか、新たにアンコールワットのバイヨン寺院での修復支援事業を始めました。またユネスコ世界遺産条約40周年を記念した「世界遺産年報2013」を宝くじ協会の助成を得て発行し、関係方面に寄贈しました。

上記諸活動による経営の安定と健全化の進展について、会員および関係各位に深謝致します。

1. 国内における平和構築活動

(1) 普及実践活動

① 民間ユネスコ運動 65 周年記念 第 68 回日本ユネスコ運動全国大会 in 高松

第 68 回日本ユネスコ運動全国大会 in 高松が「つなげよう平和の心 築こう平和の文化―地域から世界へ大切なものを守るために―」をテーマに約 600 名が参加し、開催された。基調講演、鼎談やプロジェクト未来遺産「農村歌舞伎祇園座」講演などの 2 日間のプログラムを通して、平和を引き継ぐ人材を育てることの大切さと、民間ユネスコ運動の多様性を印象付ける大会となった。

場所 香川県高松市

日程 2012 年 9 月 15 日、16 日

会場 アルファあなぶきホール・小ホール

主催 日本ユネスコ協会連盟、香川県ユネスコ連絡協議会、高松ユネスコ協会、高松ユネスコクラブ

共催 香川県教育委員会、高松市教育委員会

後援 外務省、文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、国際連合広報センター、香川県、高松市、(財)香川県国際交流協会、(財)高松市国際交流協会、NHK 高松放送局、RNC 西日本放送、KSB 瀬戸内海放送、四国新聞社、ライオンズクラブ国際協会 336-A 地区 4R、高松西ロータリークラブ、香川県中小企業同友会等

② ブロック別ユネスコ活動研究会

民間ユネスコ活動振興のため、ユネスコ協会の会員を対象とした研究会を以下の通り実施した。

| | | |
|-------------------|--------------|---------------------|
| 近畿ブロック・ユネスコ活動研究会 | (滋賀県長浜市) | 2012 年 7 月 28～29 日 |
| 中部東ブロック・ユネスコ活動研究会 | (山梨県山梨市) | 2012 年 9 月 8～9 日 |
| 関東ブロック・ユネスコ活動研究会 | (茨城県つくば市) | 2012 年 10 月 13～14 日 |
| 東北ブロック・ユネスコ活動研究会 | (岩手県西磐井郡平泉町) | 2012 年 10 月 13～14 日 |
| 北海道ブロック・ユネスコ活動研究会 | (北海道旭川市) | 2012 年 10 月 20～21 日 |
| 九州ブロック・ユネスコ活動研究会 | (鹿児島県鹿児島市) | 2012 年 10 月 27～28 日 |
| 中部西ブロック・ユネスコ活動研究会 | (富山県氷見市) | 2012 年 10 月 27～28 日 |
| 中国ブロック・ユネスコ活動研究会 | (山口県宇部市) | 2012 年 11 月 17～18 日 |
| 四国ブロック・ユネスコ活動研究会 | (徳島県徳島市) | 2013 年 2 月 2～3 日 |

③ 「平和の鐘 (かね・おと) を鳴らそう！」キャンペーン、民間ユネスコ運動の日

7 月から 8 月を中心に、全国各地でユネスコ運動を広く社会に知ってもらう活動が展開された。恒例となった「平和の鐘 (かね・おと) を鳴らそう！」や東日本大震災の被災地への募金活動などが活発に行われた。

(2) 青少年活動

① 東日本大震災子ども支援募金

次世代育成のための青年活動の支援を行うとともに、2011年3月に発生した東日本大震災の緊急性にかんがみ、岩手、宮城、福島三県の沿岸被災地に対し、ユネスコ協会並びに企業、団体、個人の協力を得て、以下の活動を行った。

A) ユネスコ協会就学支援奨学金

東日本大震災により、子どもの就学が経済的に厳しい家庭に、原則として月額2万円を3年間給付する事業である。岩手県陸前高田市、釜石市、大槌町、宮城県気仙沼市、石巻市、仙台市、東松島市、名取市、南三陸町、女川町、福島県南相馬市の計11自治体で1,847人の児童・生徒に対して奨学金を給付した。

B) MUFJ-ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

三菱UFJフィナンシャル・グループと共同で、2011年4月に「MUFJ・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」を設立。本基金は、震災により遺児・孤児となった小学生から高校生までの子どもたちが心豊かに成長することを願って、奨学金プログラム、心豊かな成長プログラム、花壇再生プログラム、ボランティア活動プログラムを継続実施した。奨学金プログラムは、遺児・孤児を対象に、高校卒業時まで奨学金（開始時に一時金10万円、月額2万円）を給付する。2012年度は、遺児・孤児1,231名に同奨学金を給付した。

C) 文化支援

企業の協力を得て、コミュニティ図書館、被災児童への文房具などの支援を行った。映像作家・手塚真氏による監督、日本テトラパック株式会社の特別協賛を得て、ドキュメンタリー「雄勝～法印神楽の復興」を制作し、2012年11月10日に渋谷ヒカリエにて、その後全国66ヶ所で上映会が開催された。また、デザイナー・コシノジュンコ氏の協力で「伊達の黒船太鼓」の衣装を支援した。

D) 力士会による支援

白鵬関をはじめとする力士会の力士の協力を得て、津波で破壊された岩手県山田町相撲場を再建し、2012年8月8日に白鵬関ら力士9名が参加して記念式典を開催した。

E) 企業マッチング支援

企業の協力を得て、宮城県気仙沼市などでコミュニティの再生を支援した。

F) 学校支援

2011年4月から2012年3月31日までに実施した緊急学校支援の調整業務を行った。

G) 「ベラルーシ共和国からの児童画展」の展示会、「奨学生から寄せられたお手紙」の展示会、UNESCO アーティストフォーピース・バイオリニスト二村英仁氏によるチャリティコンサートなどを株式会社アトレなどの協力を得て開催し、復興への努力を続ける被災地への支援を呼びかけた。

H) 「東日本大震災 教育復興支援レポート ～絆の一年～」を発行し、募金者、協力企業に活動報告を行った。

② ボランティア・スタディツアー

カンボジア・シエムリアップ州の寺子屋の現場を訪問し、世界寺子屋運動、世界遺産やカンボジアの歴史・文化について学ぶ機会を得た。今後、参加者が地元でユネスコ運動を活性化していくための経験となった。

| | |
|---------------|----------------|
| 札幌ユネスコ協会 | 2012年11月21～25日 |
| 日光ユネスコ協会 | 2013年2月5～10日 |
| 文京学院大学 | 2013年2月5～13日 |
| 名古屋ユネスコ協会 | 2013年2月18～23日 |
| 一般 | 2013年3月6～10日 |
| 慶応義塾大学ユネスコクラブ | 2013年3月15～20日 |
| 一般 | 2013年3月20～24日 |
| 一般 | 2013年3月27～31日 |

③ ユネスコ寺子屋プロジェクト

国内の36校で3,016名の児童/生徒が「ユネスコ世界寺子屋運動」について学び、コンピューターを使用して、運動を支援するためのリーフレット制作に取り組んだ。2013年2～3月にリーフレットコンテストを実施し、羽衣学園高等学校の生徒による作品が「日本ユネスコ協会連盟賞」に選ばれ、2013年度書きそんじハガキキャンペーン用のリーフレットの素案として採用された。

④ 第44回ユネスコ子どもキャンプ

小学4年生から中学3年生の111名と青年スタッフ約70名、米軍基地関係者約50名が参加し、世界遺産、自然、ユネスコへの理解を深め、国際理解と相互協力の大切さを学んだ。

日時 2012年8月9～12日

場所 山口県ふれあいパーク（山口県岩国市）

主催 日本ユネスコ協会連盟、山口県ユネスコ協会連盟、岩国ユネスコ協会

⑤ 「守ろう地球のたからもの」（通年）

協力： 三菱UFJフィナンシャル・グループ、及び三菱UFJ環境財団

「国連持続可能な開発のための教育の10年（UNDESD）」の理念に基づき、持続発展教育（ESD）を推進することを目的に以下の事業を行った。

A) ESD教材「豊かな自然編」「豊かな世界遺産編」を授業での実践を希望する学校へ寄贈した。過去5年間にこのESD教材を使って学習した子どもたちは延べ3万3000人にのぼる。

B) 世界遺産「白神山地」周辺地域の国有林伐採跡地に2万本を植樹し、過去5年間に10万本の植樹を達成した。2012年6月2～3日、6月30日～7月1日には三菱UFJフィナンシャル・グループ社員が植樹作業にボランティア参加した。

C) 第 37 回「みどりの絵コンクール」を三菱 UFJ 環境財団との共催で実施。28,057 点の応募作品の中から、最優秀賞 9 名、優秀賞 36 名、入選 410 名が選ばれた。2012 年 12 月 8 日、東京都千代田区で最優秀賞の表彰式を実施した。

D) 2012 年 8 月 3～5 日、青森県で子ども自然体験教室を開催し、第 36 回（2011 年度）みどりの絵コンクール受賞者とその家族を招待した。

E) ユネスコスクールへの支援

三菱東京 UFJ 銀行と協同で、ユネスコスクール新規登録校にプレート寄贈した。ユネスコスクール登録高校生対象「ESD 国際交流事業」では 2013 年 3 月 20 日から 27 日までユネスコスクール加盟校の高校生 12 名と教員 1 名がドイツ及びフランスのユネスコスクール、UNESCO パリ本部を訪問した。「ESD アシストプロジェクト」に関しては申請 149 校のうち 119 校に ESD 活動の助成を行った。

⑥ 第 11 期三菱アジア子供絵日記フェスタの共催（通年）

主催 三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟（AFUCA）、
日本ユネスコ協会連盟

国際識字年を記念し、1990 年から、相互の文化や生活に触れ、理解を深めることを目的に開始し、継続実施している。第 11 期の事業についてはアジア 24 の国・地域の子どもたちから 70,899 作品の応募があった。2013 年 2 月 21～22 日に国内選考会が行われ、日本からの代表 8 作品が決定した。

⑦ MSD サイエンススクール

MSD 株式会社（旧萬有製薬）の協力により、小学校 6 年生を対象に「いのちと健康」をテーマに「サイエンススクール」を以下 10 校で出前授業を行い、身体のメカニズム、薬の発見、科学者たちのルール、軟膏づくり体験を通じて生命や科学への興味をもつきっかけとなった。

| | |
|-------------|------------------|
| 杉並区立桃井第三小学校 | 2012 年 6 月 12 日 |
| 目黒区立五本木小学校 | 2012 年 7 月 4 日 |
| 横浜市立元街小学校 | 2012 年 7 月 11 日 |
| 千代田区立九段小学校 | 2012 年 7 月 13 日 |
| 大阪市立堀江小学校 | 2012 年 9 月 28 日 |
| 大阪市立阿倍野小学校 | 2012 年 10 月 18 日 |
| 千葉市立白井小学校 | 2012 年 11 月 6 日 |
| 釜石市立双葉小学校 | 2012 年 11 月 20 日 |
| 釜石市立小佐野小学校 | 2012 年 11 月 21 日 |
| 熊谷市立長井小学校 | 2012 年 12 月 6 日 |

(3) 組織の拡大とユネスコ活動の充実

① 青少年ユネスコ活動助成

地域ユネスコ活動の一層の振興をはかるため、ユネスコ協会が企画する青少年事業、ユネスコスクールや学校内ユネスコ活動と地域ユネスコ協会の連携強化に資する事業、「わたしの町のたからもの」絵画展事業などを中心としたユネスコ活動 63 件を助成した。

② ユネスコ活動の普及と促進

A) ユネスコ活動の普及促進

新しいユネスコ協会の設立、ユネスコスクールの充実・振興、青年のユネスコ活動の振興など、地域でのユネスコ活動の普及を促進し、地域のユネスコ協会に定期的に情報を発信した。

<新設ユネスコ協会>

| | |
|----------------|-------------------------------|
| 亀山ユネスコ協会 | 2012年5月26日第482回理事会承認 |
| 特定非営利活動法人環境維新隊 | 東京ユネスコクラブ 2012年9月1日第484回理事会承認 |
| 新宮ユネスコ協会 | 2012年9月1日第484回理事会承認 |
| 鎌ヶ谷ユネスコ協会 | 2012年9月1日第484回理事会承認 |
| 松阪ユネスコ協会 | 2012年11月10日第485回理事会承認 |
| 稚内ユネスコ協会 | 2013年1月19日第486回理事会承認 |
| 箕面ユネスコ協会 | 2013年1月19日第486回理事会承認 |

B) ユネスコ協会活動振興のための顕彰

2012年6月23日に開催された第63回通常総会でユネスコ協会活動振興のための23ユネスコ協会に対して顕彰を行った。

(4) 世界遺産・地域遺産活動

① 未来遺産運動（通年）

地域の文化・自然遺産を未来へ伝えるために、次の事業を行った。

A) プロジェクト未来遺産

特別協力企業：東日本旅客鉄道株式会社、レクサス

事業協力：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

2012年4月1日～8月31日の公募期間に21都道府県から24プロジェクトを受付。プロジェクト未来遺産選考のために西村幸夫東京大学教授を委員長とする未来遺産委員会を設置。未来遺産委員会の各分野の専門家によるワーキング・グループを結成、評価項目や選考方法を決定。書類選考後、ワーキング・グループメンバーを中心に現地調査し、調査報告書を作成した。11月13日に未来遺産委員会を開催し、2012年度第4回「プロジェクト未来遺産」として9団体を選考し、登録を決定した。登録証伝達式は2013年1月より各地で実施した。

2012年度第4回「プロジェクト未来遺産2012」（※プロジェクト名／団体名／市町村）

- 1 「月浜のえんずのわり」を未来につなげよう／えんずのわり保存会／宮城県東松島市
- 2 新津丘陵の自然・森林・歴史遺産の保全・整備プロジェクト／NPO法人にいがた森林(もり)の仲間(とも)の会／新潟県新潟市

- 3 水戸の歴史資産“偕楽園と弘道館”の魅力を子どもたちに伝える活動／偕楽園公園を愛する市民の会／茨城県水戸市
- 4 越前にコウノトリ呼び戻す田んぼファンクラブ／水辺と生き物を守る農家と市民の会／福井県越前市
- 5 みんなの手で守り、未来に伝える！日本の原風景『丸山千枚田』／丸山千枚田保存会／三重県熊野市
- 6 銀の馬車道プロジェクト～日本初の高速産業道路を未来につなぐ～／銀の馬車道ネットワーク協議会／兵庫県姫路市
- 7 いやしの里深野を目指して。希少になったササユリ保護・増殖活動／深野ササユリ保存会／奈良県宇陀市
- 8 笑い講とお笑い講で世界中に笑いを広める運動／一般社団法人防府市観光協会／山口県防府市
- 9 鬼と炎が舞う長岩屋修正鬼会(ながいわやしゅじょうおにえ)／長岩屋修正鬼会保存会／大分県豊後高田市

B) 私のまちのたからものコンテスト（スライドショー）

全国の小・中・高等学校を対象に、児童・生徒の郷土愛を育むことを目的とし、デジタル写真にナレーションや音楽をつけたスライドショー作品を募集。応募 67 作品から受賞作品 6 点を選出、2013 年 3 月 26 日に東京都千代田区にて表彰式を行った。

1. 日本ユネスコ協会連盟賞（最優秀賞）
奈良県奈良市立興東中学校 1 年 『大柳生の伝統～太鼓踊りへの熱い思い～』
2. D-project 賞（優秀賞）
奈良県奈良市立椿井小学校 6 年 『漢国(かんごう)神社』
3. あいおいニッセイ同和損害保険株式会社賞（優秀賞）
北海道札幌平岸高等学校 1 年 『鯨（ニシン）漁が作った歴史』
4. チャレンジ賞（音声なし部門）
富山県富山市立五福小学校 3 年 『みんなのたから 見つけたよ』
5. 個人部門最優秀賞
秋田県横手市立朝倉小学校 6 年 『わたしのまち 横手のたからもの』
6. 個人部門優秀賞
奈良県奈良市立月ヶ瀬中学校 3 年 『僕のまちの宝物』

② 世界遺産年報の発行

世界遺産条約採択 40 周年を記念し、世界遺産の最新情報を盛り込んだ「世界遺産年報 2013 No. 18」を財団法人日本宝くじ協会の助成を得て発行し、国公立図書館、大学附属図書館、教育委員会等へ寄贈した。

③ レクサス世界遺産フォーラム

第 6 回レクサス世界遺産フォーラムを 2012 年 10 月に奈良にて実施した。

④ 植樹プロジェクト（青森県）

2012 年 9 月、世界遺産「白神山地」周辺地域の西目屋村にて植樹活動を行った。

⑤ 世界遺産条約採択 40 周年記念最終会合オープニング・イベント（京都府京都市）

2012 年 11 月 5 日、松田昌士会長、野口昇理事長が出席し、ボコバ UNESCO 事務局長と会談した。

(5) 海外との連携

① アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟 (AFUCA) の活動振興 (通年)

2012年5月1～5日にカトマンズ・ネパールにて開催された第21回AFUCA執行委員会に野口昇理事長、大瀧太市監事等が出席した。会長にはユー・ジェイクン氏 (韓国)、名誉会長に松田昌士氏 (前会長)、事務局長に野口昇氏が選出された。

② 世界ユネスコ協会クラブ連盟 (WFUCA) への協力 (通年)

WFUCA事務局と連絡をとり、世界にまたがるユネスコ協会・クラブ活動の振興に協力した。

③ UNESCOとの連携

A) 2012年2月15日、UNESCOボコバ事務局長と松田昌士会長との間で締結した日本国内におけるUNESCOへの資金調達に関する協定に関し、協力企業との交渉を行った。

B) UNESCO芸術賞基金の管理・運営、及びUNESCOパリ本部と連絡業務を行った。

C) 2012年8月22～27日、モンゴル・ウランバートル市で「UNESCO東アジア子ども芸術祭」が、日本、モンゴル、韓国、中国、マカオの子どもたちを招いて開催された。日本から宮城県気仙沼市立月立小学校の児童10名が参加し、早稲谷鹿踊りを披露した。

D) 2012年10月8～12日にUNESCOと共催で東日本大震災支援への謝意を表わすことを目的に『浮世絵展示会～日本より感謝を込めて～』をUNESCO執行委員会開催に合わせてUNESCOパリ本部で開催。執行委員国代表を含め、約850人が来場した。2012年10月11日には記念講演会『200年前へタイムスリップ～浮世絵をデジタル画像でのぞく～』をパリ日本文化会館と共催。「フランス・UNESCO訪問の旅」にはユネスコ協会会員など全国から26人が参加し、UNESCOパリ本部を訪問、ジャン・マルクルイサダ氏プライベートピアノコンサートに参加したほか、浮世絵展示会、モン・サン・ミッシェルを視察した。

E) 「KIZUNA強化プロジェクトカナダ」

外務省からの資金拠出先であるUNESCOから「KIZUNA強化プロジェクトカナダ」を受託。東日本大震災復興支援のための日本政府の施策の一環として日本の被災地とカナダの各4地域から高校生100人の交流事業を実施した。2013年1月3～15日にマニトバ州ケルビン高校から27人、ケベック州トラファルガー女子学校から25人、2013年3月1～13日にブリティッシュコロンビア州ウェスト・バンクーバー高校から27人、オンタリオ州マルバーン高校から22人が来日。東日本大震災の被災地を訪問し、市川市ユネスコ協会、高崎ユネスコ協会、厚木ユネスコ協会、目黒ユネスコ協会の協力によるホームステイで、相互理解と交流を深めた。

F) 「こころに笑顔プロジェクト」

UNESCOの協力依頼に応え、ドイツの化学メーカー・BASFの寄附により被災地での教育復興事業「こころに笑顔プロジェクト」を受託。宮城県気仙沼市を中心に教育・文化復興のために子どもキャンプ、補習学習、文化活動、遊具・スポーツ用品の支援などを通じて子どもたちが笑顔を取り戻すことに寄与した。

(6) 普及広報活動

民間ユネスコ活動の普及・広報を目的として以下の活動を行った。

① 機関誌「ユネスコ」の発行

会員機関誌「ユネスコ」を以下の通り発行し、会員間の情報交流を促進した。

機関誌「ユネスコ2012年4月号 vol. 1136」 2012年4月1日発行

機関誌「ユネスコ2012年7月号 vol. 1137」 2012年7月1日発行

機関誌「ユネスコ2012年10月号 vol. 1138」 2012年10月1日発行

機関誌「ユネスコ 2013年1月号 vol. 1139」 2013年1月1日発行

② 日本ユネスコ協会連盟概要ブックレットの制作・配布

ユネスコ活動への賛同者を増やすために、募金や寄附に関する情報を分かりやすく伝えるパンフレット等を制作し、配布した。

③ 日本ユネスコ協会連盟ホームページの更新・管理運営

民間ユネスコ活動に関する「活動ニュース」、「スタッフブログ」、「会員ページ」、「トピックス」など最新情報に随時更新し、フェイスブック登録は、1,144名（2013年3月31日現在）に伸びた。

④ メールマガジン、リリース等による情報発信

機関誌・ホームページ等に掲載した情報をメールマガジン通巻169号～182号で発行した。多くの賛同・協力者を募るため、マスコミに対してリリースを配信した。

⑤ 広報特使との協働

東儀秀樹（日本ユネスコ協会連盟スペシャルアドバイザー）、久保純子（日本ユネスコ協会連盟広報特使まなびゲーター）、わさお（日本ユネスコ協会連盟世界遺産活動特別大使犬）、二村英仁（UNESCO アーティストフォーピース）、横綱白鵬関（UNESCO スポーツチャンピオン）の各氏に協力を得て、東日本大震災子ども支援への募金活動などユネスコ運動について広報協力いただいた。

⑥ 広報媒体の制作と活用

未来遺産運動、東日本大震災子ども支援募金、書きそんじハガキを呼びかけるコマーシャルを制作し、タクシーちゃんねる株式会社の協力で都内3,000台のタクシー内に設置されたビジョンで放映した。また日本経済新聞（2013年3月12日）、毎日新聞（2013年3月31日）紙上に「東日本大震災子ども支援募金 ユネスコ協会就学支援奨学金」への募金協力を呼びかける新聞広告を掲載した。

⑦ 都市対抗野球大会

2012年7月24日に東京ドーム（東京都）で開催された第83回都市対抗野球大会で優勝したJX-ENEOSに、スポーツを通じて平和のメッセージを発信する目的で日本ユネスコ協会連盟賞を授与した。

2. 海外における平和構築活動

(1) 世界寺子屋支援活動（通年）

“すべての人に教育を（EFA）”の目標達成のため、誰もが基本的人権としての基礎教育を受けられ、持続可能な地域の発展と平和な社会づくりに参画できる世界を目指し、開発途上国において教育機会を得られない人びとに対して、世界寺子屋運動を通じた教育支援活動を継続実施した。世界寺子屋運動広報特使・久保純子氏や株式会社電通の協力を得て、国内の募金広報活動を積極的に行った。アジア各国での実施事業は、次の通りである。

① カンボジア（アンコール寺子屋プロジェクト）

シェムリアップ州の中心地にある日ユ協連カンボジア事務所を拠点に州内9地域の寺子屋で識字教育、中途退学した子どもたちへの復学クラスや収入向上活動を行い、新たに2軒の寺子屋を建設した。約1,500人に学びの機会を提供した。

② アフガニスタン（アフガニスタン寺子屋プロジェクト）

日ユ協連カブール事務所を拠点とし、アフガニスタン教育省識字局と連携して、カブール県、パルワン県、バーミヤン県に設置された13地域の寺子屋を通じて、主に成人を対象とした識字教育・技術訓練、収入向上事業を実施した。またカブール市13地区で新しい寺子屋を建設した。約3,000人に学びの機会を提供した。

③ ネパール（ネパール寺子屋プロジェクト）

世界遺産「ルンビニ」周辺の12地域とカトマンズ近郊の4地域の16の寺子屋を通じて識字教育・小学校クラス、技術訓練、収入向上事業を実施した。またネパール政府が実施した識字キャンペーンに協力し、ルンビニで識字クラスを拡大展開した。約2,000人に学びの機会を提供した。

④ インド（ゴカック寺子屋プロジェクト）

カルナータカ州ゴカック郡でベルガウム農村総合開発協会と協力して、45村で識字教育・技術訓練、収入向上事業を実施し、2012年7月にプロジェクト終了を迎えた。今後は寺子屋運営委員（CLCMC）の代表者からなるCLCMC連合が企業や行政に資金や技術援助を依頼し、CLCの運営やモニタリングを担当する。

⑤ ラオス（ルアンパバン寺子屋プロジェクト）

ラオス教育省と連携して、国内の最貧困地域ルアンパバン県の4郡12地域で、成人を対象とした識字教育、及び小口融資活動や織物技術訓練などを通じた収入向上プログラムを実施し、2013年3月にプロジェクト終了を迎えた。今後は教育省がフォローアップする。約500人に学びの機会を提供した。

⑥ アフガニスタン難民子ども支援募金

カブール市近郊の難民キャンプに暮らす帰還難民並びに国内避難民の子どもたちが安全に冬を越せるように援助パッケージ、食糧や毛布、暖房のための木炭を200名以上の子どもに支援した。

また、昨年度に引き続き、世界寺子屋運動の促進を図った。

① NHK「日本賞・日本ユネスコ協会連盟賞」の授与

NHK主催の「日本賞」教育番組国際コンクールで、途上国の識字教育を促進する優れた番組企画（コロンビアの作品）に対し、「日本ユネスコ協会連盟賞」を授与した。

② 世界寺子屋運動の新たな展開に向けて調査を行い、教育支援活動に関心のある企業や団体に協力を求める活動を行った。

(2) 「一杯のスプーン」支援活動（通年）

① アジア各国で、世界寺子屋運動の支援先と連携しながら、無償医療活動を支援した。

A) ネパール

世界寺子屋運動の支援地ルンビニの12村において3ヶ月に1回、巡回医療活動および栄養補助、食品配布を行った。

B) アフガニスタン

カブール市内のJIFFクリニックが実施する医療活動への支援を行い、年間7万7千人以上が利用した。またカブール市内の世界寺子屋運動実施地域に向け、巡回クリニックを実施した。

② 一杯のスプーン促進事業

一杯のスプーンで支援する医療活動に関連する企業や団体に活動への協力を求める活動を行った。

(3) 世界遺産・地域遺産活動（通年）

① アジア2カ国での事業実施

A) カンボジアの世界遺産「アンコール」（アンコール・文化教育プロジェクト）

カンボジア NGO（JST）と協力し、世界遺産「アンコール」のひとつであるバイヨン寺院のナーガ像やシンハ像の修復活動を支援した。

B) フィリピン・コリディリェーラの棚田群 イフガオの棚田文化継承プロジェクト

イフガオ州で棚田を保存するための伝統的知識を次世代の若者に引き継ぐことを目的とした事業を行い、大学の一般教養カリキュラムに「棚田の保全方法について」の授業が組み込まれた。事業を含む民間の保全活動が評価され、第36回世界遺産委員会（2012年6月24日～7月6日）で、危機遺産リストからの解除が決定。本事業は2012年度で終了した。

② 世界遺産・地域遺産活動促進事業

世界遺産条約の趣旨を正確に広報するため、世界遺産活動の新たな展開に向けての企画、活動への協力者を増強するための広報活動を実施した。

3. 財務体質の強化

民間ユネスコ運動の健全な発展を図るためには、事業構造・財務体質の不断の改善が不可欠である。そのため本年度は、事業財務改善3ヵ年計画の初年度と位置づけ、事業の効率化と事業資金の獲得を目指した。所要の措置を講じた結果、本年度は当初の目的を上回る結果を得ることが出来た。事業資金の拡大その他については、以下の諸措置を講じた。

(1) 募金促進

① 書きそんじハガキ回収キャンペーン（2012年11月～2013年3月）

2012年11月から始まったキャンペーンでは、過去最多の154ユネスコ協会が参加した。参加ユネスコ協会が地域のマスコミに協力を依頼、日ユ協連からもプレスリリースを発信した相乗効果で広報効果を上げた。株式会社電通の協力で、オリジナルのチラシを作成。フェイスブックで情報を提供し、1,279人が「いいね」をクリック、1,697人が情報をシェア（共有）した。キャンペーン期間中に約1,260万円分の未使用切手とハガキが集まった。

② 「月1いいこと」拡大キャンペーン

インターネット募金の改定による月1いいことプログラムの推進や、募金呼びかけのツールの改定を行い、募金拡大に努めた。

③ 募金者への報告と支援要請の実施

募金者の方々に支援先の現状や事業進捗、現地からのメッセージを伝え、ユネスコ運動への継続した支援と募金をさらにお願ひするための施策を実施した。

④ 「2011年度活動報告レポート」の制作・発送

世界寺子屋運動、一杯のスプーン支援活動、世界遺産・地域遺産活動等の募金による活動に加え、東日本大震災子ども支援募金の支援活動も掲載した報告書を発行し、募金者等に送付した。

(2) 企業協力促進

① 日本ユネスコ協会連盟の名称やロゴ、各事業の素材（写真等）を用いて、企業が寄附する仕組みを企画立案し、企業との協働事業を構築した。

② 東日本大震災 子ども支援募金にご寄附いただいた企業、募金者等の善意に応えるため、「東日本大震災 教育復興支援レポート ～絆の一年～」を発刊するとともに、役員が主だった協力企業等を訪問した。被災地の現状と被災者の窮状を訴え、引き続き支援を要請するとともに新しい事業展開への協力を求めた。これに対し、これまでの当協会連盟の事業遂行に対して高い評価を得るとともに、熱い激励を得たことは今後の事業継続に大きな弾みを与えた。

(3) 健全な財務の維持向上と効率的な民間ユネスコ運動の展開

事業財務改善3ヵ年計画を初期の通り達成するため、理事会内に「『民間ユネスコ運動の今後の発展にむけて』実現に向けてのワーキンググループ」、「青少年ユネスコ活動支援ワーキンググループ」、「青少年ユネスコ活動支援『ユネスコスクール』ワーキンググループ」を設置した。2012年度事業の着実な実施を図るとともに、2013年度事業実施に向けて集中的な審議を行った。

Ⅱ 組織

1. 理事（28）（五十音順）（* 代表理事）

| | | | |
|------|-------|--------------------------------|---------|
| 会長 | 松田昌士* | （東日本旅客鉄道株式会社顧問） | 非常勤<維持> |
| 副会長 | 加藤玲子 | （特定非営利活動法人目黒ユネスコ協会名誉会長） | 非常勤<構成> |
| 理事長 | 野口 昇* | （文京学院大学特任教授・国際交流センター長） | 非常勤<会推> |
| 専務理事 | 内田眞朗* | （公益社団法人日本ユネスコ協会連盟事務局長） | 常勤 <個人> |
| 理事 | 石川 航 | （岐阜ユネスコ協会青年部） | 非常勤<青年> |
| | 石田喬也 | （鎌倉ユネスコ協会理事長） | 非常勤<構成> |
| | 北川建次 | （広島ユネスコ協会会長） | 非常勤<構成> |
| | 太田原弘 | （盛岡ユネスコ協会副会長） | 非常勤<構成> |
| | 岡田 茂 | （日本ユネスコ協会連盟元事務局長） | 非常勤<個人> |
| | 小出寛治 | （NTTファイナンス株式会社顧問） | 非常勤<会推> |
| | 鈴木佑司 | （法政大学教授） | 非常勤<個人> |
| | 須田洋光 | （高崎ユネスコ協会会長） | 非常勤<構成> |
| | 千住孝一郎 | （三菱商事株式会社総務部環境・CSR推進部部長代行） | 非常勤<維持> |
| | 高見裕一 | （地球コーポレーション株式会社代表取締役） | 非常勤<会推> |
| | 田中弘允 | （鹿児島ユネスコ協会会長） | 非常勤<構成> |
| | 中村優子 | （株式会社電通総務局/社会貢献・環境推進部長） | 非常勤<維持> |
| | 西村幸夫 | （東京大学大学院教授、東京大学副学長） | 非常勤<個人> |
| | 二瓶和敏 | （二瓶総合法律事務所弁護士） | 非常勤<個人> |
| | 野田智義 | （特定非営利活動法人アイ・エス・エル理事長） | 非常勤<会推> |
| | 野本武男 | （松山ユネスコ協会会長） | 非常勤<構成> |
| | 樋口達夫 | （大塚ホールディングス株式会社代表取締役社長兼CEO） | 非常勤<維持> |
| | 廣瀬忠子 | （芦屋ユネスコ協会会長） | 非常勤<構成> |
| | 藤崎壮吾 | （富士通株式会社パブリックリレーションズ本部CSR推進部長） | 非常勤<会推> |
| | 松浦 慎 | （奈良ユネスコ協会青年部代表） | 非常勤<青年> |
| | 松波孝之 | （富山ユネスコ協会会長） | 非常勤<構成> |
| | 溝畑靖雄 | （一般社団法人日本の伝統を守る会常務理事） | 非常勤<賛助> |
| | 横山 清 | （札幌ユネスコ協会会長） | 非常勤<構成> |
| | 米田伸次 | （帝京大学沖永国際教育研究所客員教授） | 非常勤<個人> |

（注）<構成>：構成団体会員代表、<賛助>：賛助団体会員代表、<個人>：個人会員代表、<維持>：維持会員代表、<青年>：青年代表、<会推>：会長推薦

2. 監事（3）

| | | |
|------|----------------------|-----|
| 大瀧太市 | （朝日実業株式会社元社長） | 非常勤 |
| 鈴木幹夫 | （日本放送協会元理事） | 非常勤 |
| 松代隆子 | （財団法人吉田秀雄記念事業財団専務理事） | 非常勤 |

3. 顧問（8）

糟谷 勝一 児島 仁 堤 清二 濱中昭一郎 福原 義春
松浦晃一郎 村井 了 村田 昌志

4. 評議員数

| 会員種別 | 2011年度-2012年度 | 定員 |
|----------|---------------|--------|
| 構成団体会員 | 86人 | 100人以内 |
| （うち青年代表） | （4人） | 9人以内 |
| 国内委員会委員 | 9人 | 9人以内 |
| 賛助団体会員 | 4人 | 5人以内 |
| 個人会員 | 30人 | 30人以内 |
| 維持会員 | 15人 | 15人以内 |
| 計 | 144人 | 150人以内 |

5. 会員数

| 会員種別 | 2011年度末 | 減 | 増 | 2012年度末 |
|-----------|---------|----|----|---------|
| 構成団体会員 | 276 | 0 | 7 | 283 |
| 賛助団体会員 | 20 | 2 | 0 | 18 |
| 個人・終身個人会員 | 285 | 11 | 20 | 294 |
| 維持会員 | 159 | 6 | 3 | 156 |
| 計 | 740 | | | 751 |

6. 会員の異動

構成団体会員

<入会> 7

亀山ユネスコ協会 2012年5月26日第482回理事会承認
特定非営利活動法人環境維新隊 東京ユネスコクラブ 2012年9月1日第484回理事会承認
新宮ユネスコ協会 2012年9月1日第484回理事会承認
鎌ヶ谷ユネスコ協会 2012年9月1日第484回理事会承認
松阪ユネスコ協会 2012年11月10日第485回理事会承認
稚内ユネスコ協会 2013年1月19日第486回理事会承認
箕面ユネスコ協会 2013年1月19日第486回理事会承認

維持会員

<入会> 3

株式会社電通テック 2012年6月23日第483回理事会承認
エヌ・ティ・ティ ラーニングシステムズ株式会社 2013年1月19日第486回理事会承認
株式会社EM研究機構 2013年3月16日第487回理事会承認

<退会> 6

四国電力株式会社 2012年6月23日第483回理事会承認
関西電力株式会社、東北電力株式会社、株式会社コロンビアスポーツウエアジャパン
2012年11月10日第485回理事会承認
メガネの田中チェーン株式会社、富士電機株式会社 2013年3月16日第487回理事会承認

賛助団体会員

<退会> 2

財団法人なら・シルクロード博記念国際交流財団 2012年5月26日第482回理事会承認
財団法人全日本社会教育連合会 2012年9月1日第484回理事会承認

個人会員

<入会> 20

阿部隆、蟻川七郎次、福村平八郎、野口薫 2012年5月26日第482回理事会承認
牧野功、宮澤美子、酒井總子、秋山典子、吉岡昭一、豊田元子、加藤満津、臼倉サナエ、
大辻康允、田中正人、富田友子、伊藤理恵子、ピーター A マックミラン
2012年9月1日第484回理事会承認
荒田明夫、村越由美 2012年11月10日第485回理事会承認
猿橋春夫 2013年1月19日第486回理事会承認

<退会> 11

羽太宣博 2012年5月26日第482回理事会承認
瀧ノ上恒子 2012年6月23日第483回理事会承認
五十子修（終身）、福山郁子 2012年9月1日第484回理事会承認
阿王桂、齋島正次、瓜生義男、秀島道治、宮野耀子
2012年11月10日第485回理事会承認
及川信夫（終身） 2013年1月19日第486回理事会承認
宮川昭 2013年3月16日第487回理事会承認

7. 地域的なユネスコ活動の領域を代表する日本ユネスコ国内委員会委員 (2013年3月31日現在)

| | | |
|---------|--------|------------------------|
| 北海道 | 大津 和子 | (北海道ユネスコ連絡協議会会長) |
| 東北 | 菅原 展子 | (秋田ユネスコ協会会長) |
| 関東・甲信越 | 宇佐見 恵子 | (水戸ユネスコ協会会長) |
| | 井原 正登 | (特定非営利活動法人木曾ユネスコ協会会長) |
| 中部 | 金原 祥子 | (名古屋ユネスコ協会理事長) |
| 近畿 | 堀川 一晃 | (エリーニ・ユネスコ協会会長) |
| 中国 | 岡崎 天隆 | (岩国ユネスコ協会会長) |
| 四国 | 青野 正 | (新居浜ユネスコ協会会長) |
| 九州 | 東 良和 | (沖縄県ユネスコ協会副会長) |
| 全国的連合組織 | 西村 幸夫 | (日本ユネスコ協会連盟理事、東京大学副学長) |
| 全国的連合組織 | 二瓶 和敏 | (日本ユネスコ協会連盟理事、弁護士) |
| 全国的連合組織 | 見上 一幸 | (宮城教育大学副学長) |

Ⅲ 会 議

1. 総会

第63回定時総会

| | |
|-----------------|---------------------------|
| 日 時 | 2012年6月23日(土) 14:30~16:30 |
| 場 所 | 東京都・大手町サンスカイルーム 27階(A室) |
| 議 長 | 会長 松田昌士 |
| 議決権を有する社員の総数 | 743名 |
| 総議決権数 | 743個 |
| 本日の出席社員数 | 414名(議決権行使書提出者を含む) |
| 本日出席の社員が有する議決権数 | 414個 |

【決議事項】

- 第1号議案 理事の退任に伴う新理事の選出について
- 第2号議案 2011年度事業報告書(案)および計算書類等(案)について

【報告事項】

- 1 2012年度事業計画書および収支予算書
- 2 青少年育成活動に関する事例報告

2. 理事会

第482回理事会

| | |
|-----|---------------------------|
| 日 時 | 2012年5月26日(土) 13:15~15:00 |
| 場 所 | 東京都・大手町サンスカイルーム 27階(B室) |
| 議 長 | 会長 松田 昌士 |
| 出席者 | 13名(理事総数28名) |
| 議 題 | |

I. 第481回理事会議事要録の確認

II. 協議事項

- 1. 会員の入退会について
- 2. 2011年度事業報告書(案)および2011年度収支計算書(案)について
- 3. 第63回定時総会について
- 4. 第69回日本ユネスコ運動全国大会(2013年)について
- 5. その他

III. 報告事項

- 1. 日ユ協連の事業報告(2012年1月~5月)
- 2. 後援・共催事業
- 3. その他

第483回理事会

日 時 2012年6月23日(土) 13:00~14:00
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階(B室)
議 長 会長 松田 昌士
出席者 22名(理事総数28名)

議 題

- I. 第482回理事会議事要録の承認
- II. 協議事項
 1. 会員の入退会について
 2. 選考委員会の設置について
 3. ユネスコ活動の今後の発展に向けて
 4. その他
- III. 報告事項
 1. 日ユ協連の事業報告(2012年6月)
 2. 後援・共催事業
 3. その他

第484回理事会

日 時 2012年9月1日(土) 13:15~15:00
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム(B室)
議 長 会長 松田 昌士
出席者 19名(理事総数28名)

議 題

- I. 第483回理事会議事要録の承認
- II. 協議事項
 1. 会員の入退会について
 2. 民間ユネスコ運動の今後の発展に向けて(案)
 3. 会員資格の喪失について
 4. その他
- III. 報告事項
 1. 日ユ協連の事業報告(2012年6~8月)
 2. 後援・共催事業
 3. その他

第485回理事会

日 時 2012年11月10日(土) 15:00～17:30

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム (B室)

議 長 会長 松田 昌士

出席者 21名 (理事総数28名)

議 題

I. 第484回理事会議事要録の承認

II. 協議事項

1. 会員の入退会について
2. オバマ大統領宛の書簡について
3. 民間ユネスコ運動の今後の発展に向けて
 - ①個人会員入会の手引き (案)
 - ②ユネスコ子供の未来プロジェクト
 - ③青年担当理事実施アンケート
4. 機関誌「ユネスコ」について
5. その他

III. 報告事項

1. 日ユ協連の事業報告 (2012年9～10月)
2. 中間決算
3. 後援・共催事業
4. その他
 - ①第69回ユネスコ運動全国大会 in 東京

第486回理事会

日 時 2013年1月19日(土) 13:15～15:00

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム (B室)

議 長 会長 松田 昌士

出席者 22名 (理事総数28名)

I. 第485回理事会議事要録の承認

II. 協議事項

1. 会員の入退会
2. 民間ユネスコ運動の今後の発展に向けて
 - ①「民間ユネスコ運動の今後の発展に向けて」ワーキンググループ報告と提案
 - ②「青年」に関するワーキンググループ報告と提案
3. 2013年度事業計画及び予算の骨子 (案)
4. その他

III. 報告事項

1. 2012年度11月から12月までの事業報告および今後の日程(案)
2. 後援・共催事業
3. その他

第487回理事会

日 時 2013年3月16日（土）15：00～17：30

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（B室）

議 長 会長 松田 昌士

出席者 22名（理事総数28名）

I. 第486回理事会議事要録の承認

II. 協議事項

1. 会員の入退会
2. 民間ユネスコ運動の今後の発展に向けて
3. 2013年度事業計画及び予算（案）
4. 2013-2014年度役員・評議員「予備推薦管理委員会」の設置
5. その他

III. 報告事項

1. 2013年度1月から3月までの事業報告および今後の日程(案)
2. 後援・共催事業
3. その他

3. 評議員会

第27回評議員会

日 時 2012年5月26日（土）15：15～17：30
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（A室）
議 長 会長 松田 昌士
出席者 構成団体会員 41名
維持会員 2名
個人会員 17名
賛助団体会員 2名
青年代表 3名
ユネスコ国内委員 4名
出席者計 69名
委任状 47通

議 題

1. 第26回評議員会議事要録の承認
2. 2012年度事業計画書・収支予算書
3. 日ユ協連の事業報告（2012年1月～5月）
4. 東日本大震災子ども支援募金について
 - ①ユネスコ協会応援金の贈呈（岩手県連、宮城県連、福島県連）
 - ②事例発表：日ユ協連の被災地支援
ユネスコ協会の支援活動・気仙沼ユネスコ協会
ユネスコ協会の支援活動・釜石市ユネスコ協会
5. その他

第28回評議員会

日 時 2012年9月1日（土）15：15～17：30
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（A室）
議 長 会長 松田 昌士
出席者 構成団体会員 45名
維持会員 2名
個人会員 14名
賛助団体会員 2名
青年代表 4名
ユネスコ国内委員 5名
出席者計 72名
委任状 51通

議 題

1. 第27回評議員会議事要録の承認
2. 日ユ協連の事業報告（2012年6月～8月）
3. 世界寺子屋運動アフガニスタン・プロジェクトについて

日ユ協連カブール事務所 ハシミ所長

4. 民間ユネスコ運動の今後の発展に向けて
5. その他

第29回評議員会

日 時 2013年1月19日（土） 15：15～17：30

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（A室）

議 長 会長 松田 昌士

出席者 構成団体会員 48名

維持会員 6名

個人会員 18名

賛助団体会員 1名

青年代表 3名

ユネスコ国内委員 2名

出席者計 78名

委任状 35通

議 題

1. 第28回評議員会議事要録の承認
2. 日ユ協連の事業報告（2012年9月～12月）
3. 民間ユネスコ運動の今後の発展に向けて
4. 世界寺子屋運動 書きそんじハガキキャンペーンについて
鹿児島ユネスコ協会、富山ユネスコ協会
5. ユネスコスクールの普及促進について
千葉県ユネスコ協会連絡協議会、北海道ユネスコ連絡協議会
6. 卓話 加藤重治 文部科学省国際統括官
7. その他

4. 各種委員会等（役職は就任当時。委員は五十音順）

(1) 「民間ユネスコ運動の今後の発展にむけて」実現に向けてのワーキンググループ

日 時 2012年12月3日

2012年12月19日

場 所 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 会議室（東京都渋谷区）

検討事項 一、民間ユネスコ運動組織の拡大・強化（1. 構成団体会員（ユネスコ協会）の拡充、
2. 個人会員の拡充）

二、青少年育成と民間ユネスコ運動の活性化に関する以下のテーマを検討した。

- 理事の役割のあり方について
- 都道府県連の機能強化と新規設立について
- 新規ユネスコ協会の設立について
- ユネスコ子どもの未来プロジェクト（仮称）について
- 機関誌について
- ユネスコ運動全国大会、ユネスコ活動ブロック活動研究会のあり方について
- 個人会員、終身会員について

メンバー 加藤 玲子 （日ユ協連副会長、目黒ユネスコ協会名誉会長） [座長]
石田 喬也 （日ユ協連理事、鎌倉ユネスコ協会理事長） [副座長]
須田 洋光 （日ユ協連理事、高崎ユネスコ協会会長）
高見 裕一 （日ユ協連理事、個人会員）
松波 孝之 （日ユ協連理事、富山ユネスコ協会会長）
野口 昇 （日ユ協連理事長）
内田 眞朗 （日ユ協連専務理事、事務局長）

(2) 青少年ユネスコ活動支援 ワーキンググループ

日 時 2012年12月10日

2012年12月17日

場 所 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 会議室（東京都渋谷区）

検討事項 1. 「青少年ユネスコ活動支援」方針（基本方針）

- ① 「青少年ユネスコ活動支援」方針
- ② 青少年ユネスコ活動支援における対象区分・呼称・優先順位

2. 青少年ユネスコ活動支援事業方針

3. 青少年ユネスコ活動支援の財源確保

メンバー 加藤 玲子 （日ユ協連副会長、目黒ユネスコ協会名誉会長） [座長]
鈴木 佑司 （日ユ協連理事、個人会員） [副座長]
石川 航 （日ユ協連理事、岐阜ユネスコ協会）
岡田 茂 （日ユ協連理事、個人会員）
二瓶 和敏 （日ユ協連理事、個人会員）
米田 伸次 （日ユ協連理事、個人会員）
野口 昇 （日ユ協連理事長）
内田 眞朗 （日ユ協連専務理事、事務局長）

(3) 青少年ユネスコ活動支援 『ユネスコスクール』ワーキンググループ

日 時 2013年1月9日(水)

場 所 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 会議室(東京都渋谷区)

検討事項 ユネスコスクールとユネスコ協会の連携

メンバー 加藤 玲子 (日ユ協連副会長、目黒ユネスコ協会名誉会長) [座長]
鈴木 佑司 (日ユ協連理事、個人会員) [副座長]
岡田 茂 (日ユ協連理事、個人会員)
二瓶 和敏 (日ユ協連理事、個人会員)
米田 伸次 (日ユ協連理事、個人会員)
野口 昇 (日ユ協連理事長)
内田 眞朗 (日ユ協連専務理事、事務局長)

オブザーバー 小林 亮 (玉川大学教授、玉川大学ユネスコクラブ顧問)

(4) ワーキンググループ合同会合

日 時 2013年2月26日

場 所 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 会議室(東京都渋谷区)

メンバー 加藤 玲子 (日ユ協連副会長、目黒ユネスコ協会名誉会長)、両WG座長
石田 喬也 (日ユ協連理事、鎌倉ユネスコ協会理事長)、全体WG副座長
鈴木 佑司 (日ユ協連理事、個人会員)、青少年WG副座長
石川 航 (日ユ協連理事、岐阜ユネスコ協会)
岡田 茂 (日ユ協連理事、個人会員)
須田 洋光 (日ユ協連理事、高崎ユネスコ協会会長)
高見 裕一 (日ユ協連理事、個人会員)
松波 孝之 (日ユ協連理事、富山ユネスコ協会会長)
二瓶 和敏 (日ユ協連理事、個人会員)
米田 伸次 (日ユ協連理事、個人会員)
野口 昇 (日ユ協連理事長)
内田 眞朗 (日ユ専務理事、事務局長)

議 題

1. 資料説明
2. 経緯説明
3. 審議項目
 - ①「理事・評議員連絡会 実施案」
 - ②「青年全国大会やユネスコクラブ等への講師派遣」
 - ③「子ども募金(青少年ユネスコ活動支援募金)」
 - ④「高校生大学生が行うユネスコ被災地子ども応援プログラム」
 - ⑤「ユネスコ運動全国大会のあり方」
 - ⑥「ユネスコ活動ブロック研究会のあり方」
 - ⑦「個人会員の拡大について」
 - ⑧「ブロック代表理事、評議員の役割(文案)」
 - ⑨「ユネスコESDパスポート」プロジェクト
4. その他

(5) 「世界遺産年報 2013」アドバイザーグループ

- 日 時 2012年8月17日
場 所 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 会議室 (東京都渋谷区)
委嘱事項 「世界遺産年報 2013」出版に関わる専門的立場からの監修、助言
座長 西村幸夫 (日ユ協連理事、東京大学副学長、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授)
メンバー 岡田保良 (日本イコモス国内委員会、国土舘大学教授、イラク古代文化研究所所長)
稲葉信子 (日本イコモス国内委員会、筑波大学大学院人間総合科学研究科教授)
矢野和之 (日本イコモス国内委員会事務局長、株式会社文化財保存計画協会代表取締役)
吉田正人 (IUCN 日本委員会会長、筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授)
米田久美子 (財団法人自然環境研究センター研究主幹)

(6) 青少年ユネスコ活動助成審査会

- 日 時 2012年6月1日 (持ち回り)
委嘱事項 青少年ユネスコ活動助成の申請事業について、申請書類をもとに助成交付の可否及び助成交付金額の決定
委 員 野口 昇 (日ユ協連理事長)
加藤玲子 (日ユ協連副会長、目黒ユネスコ協会名誉会長)
内田眞朗 (日ユ協連専務理事、事務局長)
小出寛治 (日ユ協連理事、NTTファイナンス株式会社相談役)
高見裕一 (日ユ協連理事、地球コーポレーション株式会社代表取締役)

(7) 未来遺産委員会

- 日 時 2012年11月13日
場 所 東京大学 (東京都文京区)
委嘱事項 「プロジェクト未来遺産」の選考、調査協力、広報協力
委員長 西村幸夫 (日ユ協連理事、東京大学先端科学技術研究センター教授・副学長)
委 員 秋道智彌 (総合地球環境学研究所副所長・教授)
内田眞朗 (日本ユネスコ協会連盟連専務理事・事務局長)
古谷堯彦 (大分合同新聞社 常務取締役営業部長)
佐野賢治 (神奈川大学日本常民文化研究所所長)
七野俊彦 (トヨタ自動車(株)レクサス国内営業部部長)
銭谷眞美 (東京国立博物館館長)
千住孝一郎 (三菱商事株式会社総務部環境・CSR 推進部部长代行)
高見裕一 (日ユ協連理事、地球コーポレーション株式会社代表取締役)
土屋 誠 (琉球大学理学部海洋自然化学科教授)
中塚健也 (日本電信電話株式会社総務部長)
西山 厚 (奈良国立博物館学芸部長)
西山徳明 (北海道大学観光学高等研究センター教授)
朴 恵淑 (三重大学人文学部教授)

福原義春 (社団法人企業メセナ協議会会長)
前田耕作 (文化遺産国際協力コンソーシアム客員研究員、アフガニスタン文化研究所所長)
原口 幸 (東日本旅客鉄道株式会社常務取締役営業部長)
宮廻正明 (東京藝術大学大学院美術研究科教授)
宮田繁幸 (東京文化財研究所無形文化遺産部部長)
矢野和之 (日本イコモス国内委員会事務局長)
鷺谷いづみ (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)